

第7回授業テーマ：

「いのち」をめぐるワークショップ～温暖化適応と防災の視点から考える～」

実施日：令和元年12月7日(土)

実施場所：茨城県立歴史館講堂

受講生：121人

講師：伊藤 哲司 先生（茨城大学人文社会科学部教授）

授業内容等



グループワークを行いながら、「いのち」についての答えを導き出すワークショップ形式の講義です。災害が起こったときの対応や避難を考えながら、日頃の備え等の大切さを学びます。ワークショップの中で様々な考えを知って友だちと共有していくことで、これから地球で生きていく自分自身の人生の大切さについて学ぶ講義でした。

生命誕生からスタートし、身近に起こる災害から身を守るための危機管理等まで考える内容でした。度々身近に起きる自然災害の恐怖から、どうやって自分の身を守るのか、また他の人のことを考えられるのか、対策ができるのかについては、参観の保護者のほうが熱心に講義を聞いていました。

このような講義を体験することで、自分の意見を発し、さらには相手の言葉を受け入れる事の大切さに気づく場をもっと多く設定してほしいという意見が保護者から多数聞かれました。

授業風景



受講生の感想

- ・命の大切さが分かった。・来年はこの続きをやってほしい。・命の大切さを知った。・命について教えられた。
- ・家に帰って家族と防災会議を開きたい。・家で家族と災害のときどうするか話し合いたい。
- ・災害はとても怖いものと思った。・みんなとのワークショップでいろんな考えが出て面白かった。
- ・命というものがどんなものなのか、じっくり考えていきたいです。・命がどれだけ大切なのかが分かった。
- ・命ってなにか考えたり、守りたいものを考えたりするの楽しかった。・サステナビリティ学は何か。
- ・命について真面目に取り組んで行かなければならないと考えさせられた。・グループで命のことを考、みんなで意見を出し合えて良かった。・クロスロードが楽しかった。・今日の授業のことはずっと忘れないと思う。
- ・災害のときにどのような事をすれば良いのか考えさせられた。・命の重さ、守るべきもの大切なことがよく分かった。
- ・これからの社会を作っているのは今の僕たちなんだと言うことを考えさせられた。
- ・グループワークを行って自分では「ありえない」と言うことも言っていたりして、視野が広がった。
- ・違う人の意見を聞きながら生命体について考えることができた。
- ・命に興味を持った。いろんな人とのふれあいからたくさんの答えを聞いて面白かった。
- ・みんなとの意見の出し合いはとても楽しかった。奥の深い話ができたと感じた。
- ・自分の命や、地球の未来について考える事ができた。・災害のときは判断が難しい事が次々に起こると分かった。家族とたくさん話し合いたい。
- ・ご先祖様がいなかったら自分は生まれてこなかったと思うと、すごいことだと思った。
- ・自分達の次の世代も気持ちよく地球で過ごせるように、今から自分ができる事をしていきたい。・命には、たくさんの関係性があるが分かり勉強になった。・命を通して、みんなとも話し合い自分の意見も言うことができて良かった。・自分の命と環境につながりがある事を知った。
- ・新しい言葉や知らなかった事を学べた。
- ・先生とみんなと楽しみながら命について学ぶことができた。
- ・ワークショップからみんなとのコミュニケーションがとれて良かった。命はたった一つのかけがえのないものだと分かった。